

自分以下を求める心

あれは、小学校二年生のことです。私たちのクラスに、よくいじめられる女の子がいました。私も、他の人たちと一緒に、いじめては笑っていました。その頃の私の気持ちは、「自分以下の存在が欲しかった」のだと、今になって気づきます。あの時あの子が、もし自分だったらと思うと、今までいじめた人に対して、あやまらなくてはなりません。

自分をみがく努力もしないで、ただ自分以下が欲しいだけでいじめるのは、やっぱり差別ですね。いろいろな差別について、たくさんのことを勉強してきた私ですが、実際の生活ではそれをまるで生かしていませんでした。なんか今、考えてみると、「なぜあの時、あんなことをしたんだろう」と思ってしまいます。

思っているだけ、悪いと知っているだけでは、すぐポロッと言ってしまっって相手を傷つけたり、がっかりさせたりしてしまいます。

どうして私はこうなんだろう。やっぱり、自分以下が欲しいという気持ちが心の底にあって、それが作用しているのでしょうか。

私は、自分以下がいない人間になりたいです。そのために自分の生活にまじめにぶつからなくてはなりません。こう考えてくると、ひとのことを、とやかくいわない生き方は大切なことなんです。立派な人の証明なんですね。身のまわりを見ても、努力しない人ほど、他人を傷つけたり、とやかく言ったりしています。まるで魅力のない生き方ですね。その中に私もいるかと思うと、恥ずかしくなります。

自分以下などいない生き方をつかむことが差別やいじめをなくすことだと、だんだんわかってきました。

学校でやっている「自分新聞」や「生活の記録」、これなども、何枚も何冊も挑戦している人は、他人のことなどイヤミをいっている暇はないですからね。

私たちは、得意もあれば不得意もあります。すべてをカッコよくやることはできません。なのに、人の小さな欠点を探し出して、いじめたり、自分をすぐれていると思い違いしたりするのは、恥ずかしいことですね。ねっ先生、とっても恥ずかしいことですね。

私は今まで、人間として恥ずかしい生き方をしてきたのです。何べんも、何べんも、まちがったことをしました。

だから、他の人が私をいじめた時、そのまちがいがはつきりわからなかったのです。